

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470501509		
法人名	有限会社 二神		
事業所名	グループホームコロナ		
所在地	三重県津市大里窪田町1706-26		
自己評価作成日	令和5年12月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&liyosyoCd=2470501509-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和6年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

経営者が医師であり、毎日入居者と関わり健康管理を行っています。近くの保育園の行事に招いてもらったり、ボランティアによる園芸もたびたび来てもらっています。田園の広がるのどかな立地で、天気の良い日は散歩に行け、地域から畑で野菜などを作っている方もみえ、地域との交流も図れます。料理はすべて自炊で、肉、魚、野菜のバランスを考えた献立で、入居者の意見を反映して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

この事業所では、職員が和気あいあいとしており、業務は多忙であるがいつも相互に意見交換しながら楽しい雰囲気で行える職場になっている。そのため利用者も安定した気分になり、認知度はそれぞれであっても利用者間でトラブルもなく毎日をゆったりして過ごせる雰囲気があると感じられる。したがって家族は安心して、全てを事業所のケアに任せるといえる人が多くなっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームコロナの理念は、「地域に密着し、愛情を持って介護する」であり、管理者及び職員は、その理念を共有し、日々実践している。	理念は玄関やホール等に掲示しているが、事業所としては職員が日常の言動をとおして理解、認識を深め、支援に生かすよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶や会話をしたり、野菜を頂いたり、草取りも一緒にしている。また、地域の運動会や保育園の行事にも参加させてもらっている。運営推進会議には、自治会長も出席してくれている。	事業所は自治会に加入している。散歩の際には近隣の人と挨拶を交わすので地域に出やすい雰囲気がある。保育園の発表会に参加したり、元気なf利用者は地域の運動会にも招かれ参加する等、交流がよくされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、自治会長に事業所の現状を理解していただき、包括支援センターや市職員からの情報と合わせて、地域に持ち帰って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、自治会長及び市、地域包括支援センター、民生委員、利用者家族などから情報共有、意見交換を行い、ケアの向上、ホームの運営に活かしている。	コロナ禍で令和5年2月、4月は内部職員のみで開催したが、6月以降は行政、地域包括も参加している。自治会関係や家族には案内してあるが、今は参加していない。会議録は簡潔、分かりやすく書かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に招き、事業所の実情を積極的に伝え、意見を頂き、協力関係を築くよう努力している。	介護認定や事業費の加算手続き等について適宜市役所に出かけている。理事長は市の介護認定審査会の委員をしている。市担当者とは意見交換もよくされており、協力関係は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月に一回、虐待・身体拘束について話し合い、勉強をしている。更に、拘束が疑われるような行為がないか確認し合っている。	身体拘束廃止委員会が2カ月毎の運営推進会議の後、推進委員も含めて定例会議を行っている。何が拘束になるのか、虐待防止を含めた事例等を討議している。	身体拘束廃止委員会は市行政や地域包括も参加され、多様な実例が検討されている。しかしその記録があまりに簡略なので、もう少し内容が分かる記録が求められるのではないだろうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束廃止委員会を設置し、毎日職員同士で虐待のないことを確認し、虐待に当たるような行為は絶対ないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している入居者はいないため、話し合いはしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書とともに、契約内容についても十分説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族の希望については、面会時に要望や意見を聞かせてもらい、あまり面会に来ることができない家族には、電話で近況報告をし、意見を聞いている。	家族の来訪は週1回、月1~2回等さまざまである。来訪時は利用者の心身状態を説明し、家族の要望、意見を聞いている。家族から特に意見はなく、お任せしますという話が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔月の運営推進会議には、職員も出席し、1階、2階（ユニット）交互に議題を出し、全員に発言の機会を設けている。また、日ごろから管理者は、職員と会話し、意見を反映するよう努力している。	以前は職員会議をしたが、発言する職員がなく2年程前から会議はしていない。ケアプランのミーティングは行い、日常の報告、連絡等は送りノートに記載し、相談があれば日々の会話の中で解決している。	多忙な業務ながら、密接な日常会話で円滑に事業運営がされている。あえていえば小規模事業所でも組織的運営には会議とその記録が役立つと思われ、会議再開を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休暇や有給を取得するなど、就業環境は整備されている。職員は、意欲を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加し、そこで学んだ知識を職場に持ち帰り、他の職員に伝え、ともに向上するよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会で他事業所の職員と交流したり、施設見学させていただいたりし、良い部分を参考にさせていただいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを尊重し、代弁できるようにし、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の本人の様子を十分にアセスメントし、必要なケアを提供する。また、入居後は、本人の様子を必要に応じて家族に連絡し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向に寄り添い、ケース会議で課題や必要としている支援を見極め、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは、見守ったり、できるだけ一緒にしたりしている。また、他の入居者と支え合い、教えてもらいながら良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い方は、家族と密に連絡を取り、家族との触れ合いを持っていただくよう支援している。また、外出や外食される家族もみえ、情報を交換しながら共に本人を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス予防の都合で外出や面会を極力控えていただいていた。	以前のように馴染みの喫茶店に行ったり自宅に行く人もいる。家族の来訪時に、入居前の友人、知人が同行してくることもある。遠方の家族が都合つけて来訪することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歩行練習時は、入居者同士声を掛け合い楽しんで行っている。また、手洗いを手伝ったり、下膳などは、できる方が困難な方の分を手伝ったりし、支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気で入院し退居された方のお見舞いに行ったり、家族に会えば様子を聞いている。また、必要に応じ助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や買い物、帰宅など希望があれば、家族の協力を得て、希望に添えるようにしている。意思疎通が困難な方は、表情を見、笑顔になれるような関わりを日々検討している。	話ができる利用者は約半数である。発語や感情を出せない利用者には、その表情や仕種で推察し対応している。入浴時に表情が緩んで意思疎通できる場合もある。中には一人で買い物に出て帰ってくる人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族と面談し、しっかりアセスメントをし環境を把握している。また、入居前に関わったケアマネから話を聞いたり、サマリーを頂き、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテにその日の様子やレクリエーションの様子を記入している。毎日バイタルチェックし、顔色や表所の変化に留意し見守っている。また、できることを伸ばしながら一人ひとりの能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員間で情報を共有や、話し合い、意見を反映している。また、本人の気持ちを確認し、家族やドクターに相談している。月1回ケース会議を開き、課題やケアプランの見直しを行っている。	カンファレンスは不定期であるが、3か月毎にモニタリングとケアプランを見直している。ケアマネジャーは理事長が兼務し、出勤中の職員参加により意見交換しながら課題やプランを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のカルテや業務日誌に、その人の一日の様子や健康状態を記録し、変化や異常があればドクターに報告している。申し送りの時に、職員間で問題点を話し合い、ケアの方法を随時見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2ヶ月に1回、出張美容サービスに来てもらい、散髪してもらっている。また、介護用品や雑貨などは、家族の希望を受け、ホームで注文している。通院等家族が付き添えない場合、職員が付き添っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	のどかな田園住宅地域なので、散歩しながら地域の方たちと話をしたり、季節を感じてもらっている。また、地域の方から野菜や花をもらい一緒に育てたり、調理を楽しんだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営者が医師のため、入居者の状態や異常を報告し、指示を仰いでいる。特定のかかりつけ医がある方は、家族と受診される。協力医療機関であるやまもと歯科には、職員が付き添い受診している。	理事長は毎日のように顔を出し、観察や診療をしている。利用者は入居後全員が理事長を主治医とし頼り切っている。他の専門医に通院する際は家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問し、バイタルチェックをしていただき、介護職員が気づいた点を報告し、助言を受ける。また、医師の指示の下、適切な看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	経営者が医師なので、病院関係者との連絡や情報交換は緊密にできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した入居者は、家族の理解を得、ドクターの指示の下、看取り支援を行っている。また、入居の際、十分な説明を行っている。	入居時に終末期対応の指針により家族に説明と意見交換しており、家族はほとんどその意味を理解している。終末期は職員が観察を密にして常時理事長に様子を伝えている。看護師が必要な時は理事長のクリニックから来訪している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日ごろから地域の方や、自治会長をお願いし、協力体制を築いている。また、ホームを避難所に提供している。年2回防災訓練を行い、そのうち1回は消防署立ち合いで行っている。	防災訓練は5月と11月に行い、通報、避難、消火等を消防署員の参加、指導により行っている。コロナ禍で自治会の防災訓練がなく、参加できない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の性格を把握し、プライドを傷つけることなく、人格を尊重する言葉かけに気を付けている。居室に入る時は、ノックをし声をかけている。	利用者の欠点を他の人に話すようなことはしない、トイレ介助を大っぴらにしない等を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションを通して、希望を聞き、どのようにしたいか自己決定できるよう話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのコミュニケーションを大切に、本人のペースや希望に基づき、レクリエーションやドライブ、買い物、喫茶等の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力で、美容院に行かれたり、隔月に訪問美容サービスを利用し、散髪している。洋服は本人の好きなものを着ていただき、お化粧をされる方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの希望を聞いたり、できる方には食事作りや配膳準備を一緒にしていただいている。また、食後は、「味はどうでした？」など会話しながら食器洗いなどを手伝ってもらっている。	ユニット別に職員交代で手作り調理をしている。メニューは事前に作らず、その都度利用者の意見を参考にしている。野菜は事業所の畑の作物を活用したり、季節料理を提供するよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近日のメニューを見て、同じようなものにならないよう、バランスを考え調理している。食事量、水分量、形状等、個人の状態に合わせて提供し、食事摂取量は記録し、低栄養にならないよう支援している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛け誘導し、見守り介助を行い歯磨きしてもらっている。歯磨きができない方は、マウスウォッシュなどを用いたり、職員が歯ブラシやマウススポンジを使い、介助している。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを職員全員で共有し、声掛け誘導し、トイレでの排泄できるよう支援している。	排泄チェックはするが、タイミングを考慮し、トイレ誘導を行っている。全員がリハビリパンツを使用している。便秘の利用者がいるが、薬より歩行、腹部マッサージ、ミルク飲用等の工夫をしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽い運動や、十分な水分補給を心がけ、便秘予防に努めている。また、排便記録を付けて、便秘が続く入居者には、医師の指示で頓服の下剤を服用してもらっている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、一人で入浴できる方はいないので、週3回曜日を決め、入浴介助をしている。また、希望者は、いつでも入浴できる体制をとっている。	入浴日を決め、全員が入浴するので午前、午後の順番を決めている。都合によっては日程を変える場合もある。入浴後は着替えをしている。時にはゆず湯等をして楽しんでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は終日解放しており、横になって休みたいときは、自由に休息できるように支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日バイタルチェックや、全身状態の観察を行い、服薬管理をしている。服薬していただく時は、飲み終えるまで見守りをしている。症状に変化があれば随時医師に報告し、指示を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好みや能力に合わせて、職員と話しながら料理作りや洗濯干し・畳みなどの手伝いをしてもらうなど役割を持ってもらっている。張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ホームの近くを散歩したり、公園や海にドライブに行くなどの支援をしている。また、玄関先のベンチに座って日光浴をしてくつろいでもらっている。	コロナが収まってきて、出かけやすくなってきた。散歩は天気次第で適宜出かけており、花見は梅や桜、秋は紅葉狩り等に出かけ、外気を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かっている方は、職員と一緒に買い物に行き、お金を使用している。また、預り金のない方は、ホームで立て替えて買い物を楽しんで頂き、家族に領収書を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、自由に電話をかけている。持っていない方は、ホームの電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは、入居者がくつろいでテレビを見たり、雑談を楽しんだり、自由に過ごしていただいている。温度や換気に気を付け、壁に季節の花や塗り絵などを飾り、落ち着いて過ごせる環境を作っている。	昼間は皆が食道兼ホールで過ごしている。壁には利用者の作品が飾られ、ソファでくつろいだり、テレビを見たり、自発的に好きな細工物を作ったり塗り絵、貼り絵をしたり、食器片づけを手伝ったり、それぞれが好きなように、ゆったりと過ごす場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は各居室で一人になる場所があり、気の合った方たちはホールで話をされてみえる。利用者の意見でソファの位置を変えることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から大切にしている物や、なじみのある家具などを持ってきてもらい、生活のギャップを感じないよう工夫している。壁に写真を飾ったり、レクリエーションで作った作品を飾ったりし、生活感を出している。	居室のベッド、エアコン、洗面台、クローゼットは事業所が設置している。その他の日用品や小間物等必要な品は個人毎に好きなもの、必要なもの、思い出に品等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、屈伸運動や廊下歩行を行い、運動不足にならないよう配慮している。トイレや居室が分かり易いよう大きな字で表示している。		